



昨年、洞爺湖温泉に山岳喫茶という名の喫茶店をオープンした下田さん。店の名のとおりバックカントリーという登山の愛好家で、年間20回ほど羊蹄山やニセコの冬山に挑みます。ス

ノーシューを履き、スノーボードを背負い、ストック両手にまっすぐと斜面を登ります。時には足が攣り、痛みに堪えながら約3〜4時間もかけて登頂を目指すこともあるそうです。それでも山に登る理由は「素晴らしい雪景色と懸命に登る仲間たちとの交流、更に一本に掛ける滑走の楽しみがあるからだ」と目をキラキラ輝かせ満面の笑みで話します。

リフトを使うスノーボードとは違い、自力登頂を目指すため、一日一本しか楽しむことができません。日々刻々と変わる天候や雪質、自然と向き合いながら、心や身体のリ

洞爺湖町 地域おこし協力隊
地域おこし協力隊が 出会った素敵な人紹介

山の達人が淹れる至極の一杯
山岳喫茶
店主 **下田 太基さん**
(温泉8区)

インタビュー

地域おこし協力隊
丹野大樹



ズムによって変わる滑走。
「今日は自分が上手く滑れている。仲間が今日は良い調子だ」。何度滑っても同じ日は無く、仲間とのたわい無い楽しい会話が繰り返し下田さんを山へと誘います。

洞爺湖は、そんな山の仲間も多く、伊達市出身で子どもの頃から慣れ親しんだ場所でもあったので、移住してカフェを開くことにしました。

手造りを心掛け、サンドウィッチのパン、カレーの仕込み、珈琲豆も自ら焙煎。試行錯誤を繰り返して辿り着いたその味や香りは、訪れた町民や観光客を魅了します。「更なる味や香りの高みを極めたい」と下田さん。

一本に掛ける滑走のように、今日も一杯のコーヒーに思いを注ぎます。

今月のワンショット



さるかに合戦で懸命に玉を入れる園児たち
— 本町入江合同運動会 —

東奔西走

今月は、各地域で行われた長寿まつりに合わせて、90歳を超えて元気に活動している木村享司さんと安藤ウメさんにお話を聞きました。

2人とも若い頃は病気に倒れながらも、今は好きなことで人生を楽しんでいます。好きなことを話しているときの素敵な笑顔が印象的でした。
(H・S)

人口と世帯の動き 8月31日現在 (先月比)

男	4,256 人 (- 7)
女	4,886 人 (- 5)
計	9,142 人 (- 12)
世帯	5,020 世帯 (- 6)